

議 事 要 旨 記 録 票

日 時	令和5年(2023年)8月4日(金曜日)午後5時から午後6時20分まで
場 所	日野市役所本庁舎5階 505 会議室
会議件名	令和5年度第1回日野市福祉有償運送運営協議会
主な議題	令和4年度福祉有償運送登録団体の実施状況、新規登録協議、意見交換
参加者	[委員]戸崎肇、一ノ瀬一雄、大川稔、阿部滋子、門井迪代、柴田義之、谷口幸生、本多輝明、小林晶子、山下義之(市健康福祉部長)、志村理恵(市健康福祉部参事)[運送団体]社会福祉法人日野市社会福祉協議会、特定非営利活動法人自立生活センター日野、社会福祉法人幹福社会、一般社団法人イーライフ交通〔事務局〕福祉政策課 松田課長、香川係長、橋本主任 [オブザーバー]都市計画課 村林係長、高齢福祉課 今村係長
配布資料	次第、【資料①】日野市福祉有償運送運営協議会設置要綱、【資料②】福祉有償運送運営協議会委員名簿、【資料③】前回議事要旨録、【資料④】登録団体一覧、【資料⑤】福祉有償運送登録団体実施状況(令和元年度～令和4年度)、【資料⑥】福祉有償運送登録団体基本項目一覧表、【資料⑦】福祉有償運送運営協議会について、【資料⑧】協議のポイント、【資料⑨】人口の推移・推計、【資料⑩】福祉有償運送制度改正について
結 果	<input type="radio"/> 了承(意見なし) <input checked="" type="radio"/> 了承(意見あり) <input type="radio"/> 要修正・再説明 <input type="radio"/> 不承諾 <input type="radio"/> 情報共有のみ
主な内容	1 会議次第 (1) 開会 委員紹介、会長・副会長選出、前回議事録確認 (2) 報告・協議 令和4年度福祉有償運送登録団体の実施状況等について 登録団体の新規登録申請について (3) 意見交換 (4) 福祉有償運送制度改正について 2 内容 (1)会長、副会長の選任について <input type="radio"/> 委員の任期満了により、新たに13名の委員を委嘱。 <input type="radio"/> 委員の互選により会長に戸崎委員が、会長の指名により副会長に一ノ瀬委員が選出され、承認された。

(2)報告・協議

◇報告:令和4年度福祉有償運送登録団体の実施状況について

①事務局

- 令和2～4年度は新型コロナウイルスの影響もあったが、過去4年間の全体の傾向としては、市内の輸送実績は減少傾向である。
- 事故はなかった。

②日野市社会福祉協議会

- 利用者の数、走行距離は若干落ちてきてはいるが、利用の必要性がある方、身体能力が落ちてきている方が多く見られる。
- 対面の点呼や出庫前の点検は毎日実施している。出庫前に職員がドライバーと必ず顔を合わせて、体調や体温の確認、アルコールチェックを実施しており、帰庫時のアルコールチェックも実施している。
- 利用者から本サービスの継続を要望する声もあり、運行がスムーズに出来るよう今後も進めていきたい。

③自立生活センター日野

- 昨年度は、都内や市外に出かけたいという依頼が増えたため、前年度と比べて若干総回数が増えた。
- 今年度になりコロナ禍が明けたことで、輸送ではなく自分で公共交通を使うことで回数が減ってきており、利用者数も2名減っている。
- 点呼については、前回協議会の際は出庫時だけの対応だったが、前回協議会後は出庫時も帰庫時も必ず対面もしくは電話で点呼を行うようにしている。

④幹福社会

- 輸送件数、走行距離は前年度に比べて減少傾向にあった。
- 点呼については基本的に対面で行っている。出庫時と帰庫時に、飲酒、疲労、その他安全運転に影響がないか確認をしている。
- 利用者数は大きく変更することはなかったが、新規の問い合わせはいただいている。

⑤質疑応答

なし

◇報告:前回協議会以降の変更事項について

①日野市社会福祉協議会

- 代表者の交代があった。
- 運転するボランティアが1名増えて19名になった。
- 利用者は年度登録制で、4月に再登録もしくは新規登録が必要だが、若干の変更があった。

②自立生活センター日野

- 利用者が3人減った。

③幹福社会

- 車椅子車のうち1台を老朽化のため放出し、兼用車を取得した。
- 運転者数が前回20名だったが、研修要件を備えた者が2名増えた。
- 日野市の登録者について、要介護の方が1名増えたため7名に増えた。

④質疑応答

(運輸支局)日野市社会福祉協議会の代表者変更は届出をしているか。

(日野市社会福祉協議会)変更したばかりで代表登録の手続きをしているところなので、整い次第、届出を行う予定。

◇協議:登録団体の新規登録申請について

(事務局)一般社団法人イーライフ交通から新規登録申請に向けた協議依頼があったため、ご協議いただきたい。

(イーライフ交通)日野市で通所介護事業を11年、デイサービス事業所を4施設運営している。介護タクシーを使うほどではないが乗り換えで待っている間に体調を崩したり、タクシーを毎回使うには経済状況が苦しいという利用者の方が多く、この福祉有償運送制度を知ったので、今回新規登録申請の協議をお願いした。

(運輸支局)使用車両がセダン車両1両だが、運転者はセダンの要件を満たしているか。2種免許の方だと、加えてセダン型の講習か介護の資格が必要になる。当面の対策として、運転者以外に介護の資格をお持ちの方を同乗させることは可能か。

(イーライフ交通)運転者は介護資格を持っていないが、これから受講予定。資格取得までの間、デイサービスの方の介護福祉士の同乗対応は可能。

(運輸支局)運転者が資格を取るまでは必ず同乗をするように。

(委員)ドライバーが1名ということだが、今後増やしていく予定があるか。また、1日何件くらい、週何回くらいの運行をする予定か。

(イーライフ交通)1台で始めて、需要があるようならドライバーの増員、場合によっては使用車両の増加も検討したい。想定している運行については、運営としては平日週5日で試算したところ、1日1台で5人くらい輸送を行わないと運営が難しいと思うので、頑張ってやっていきたい。

(委員)今回の申請は、運賃がタクシー料金の1/2を超えている。先程金銭的な面で負担が出来ない方の輸送という話があったので、タクシーに乗れる人が金銭面で福祉有償運送を利用されると問題が出るのではないか。こういった形で設定されているのか。

(イーライフ交通)日野市のタクシー料金の概ね60%弱で試算している。1/2という規定は承知しているが、50%で設定した場合、1日5名・週5日の想定で試算すると、今後長期的な運営が難しい。実際に車にメーターを付けて、日野市内を15コースほど走ったうえで計算させていただいた。今回設定したのがギリギリの運営ラインになってくるので、この金額とした。

(会長)初期の段階では利用の想定が難しいので、1年後にもう一度精査するという事でどうか。既存の団体も本当に無理があるようであれば、考え直さないといけない。今回は初期段階であり、諸事情があれば50%を超えても良いことになっているので、既存事業者の方で今年度の議論が無かったら認めていきたいと思うかがいかがか。

(委員)特別に議論をするべきだと思っている。タクシーに乗れる方に経済的な負担ということで福祉有償運送を利用されると問題が出るのではないか、その点に気を付けていただければ。

(会長)タクシー事業者も厳しい状況なので、そこで競合しないようにしていただけ

ればと思う。

では、本件について議決を取る。過半数なので、本協議会として協議が調ったということで、それを証明する通知を発行する。先ほどのセダンの問題もあるので、環境を整備していただき、国土交通省に登録申請をしていただきたい。

(3)意見交換

(事務局)福祉政策課では、次期地域福祉計画を来年度に策定する。策定にあたり、福祉有償運送事業について皆様のご意見を伺いたい。

(委員)せっかく4団体できたので、具体的にどういったエリアで活動しているか、重複していないか、あるいは既存のタクシー業者とどうなっているかなど、それらが分かるようビジュアル化したマップがもしあれば非常に分かりやすい。それにコミュニティバスなどを重層的に加えると、日野市の福祉に関する輸送体制の現状について、面的に広がっているかどうか分かりやすくなるのではないかな。

(委員)タクシーも都内はジャパンタクシーと言って移動制約者が無いような形の車両が相当走っている。市内でもジャパンタクシーやハッチバックでスムーズに乗れる車もあるが、実際に運行してみて、あまりそれらの車両の指名が無く、利用頻度はあまり無いと感じている。

(委員)雨の日に電話でUDタクシーをお願いしたら、車種を選ばないでくださいと言われて、車椅子だからと理由を伝えても断られたことが有る。そうすると結局、福祉有償運送を頼まざるを得なくなる。アプリでタクシーを呼ぼうとしてもタクシーが来ない、来たとしても普通のセダンタクシーで、車椅子では乗れないからUDタクシーを呼びますねと運転手にと言われても、結局近くにUDタクシーがないからごめんなさい、という状況が結構ある。せっかく車椅子で乗れるタクシーが普及されているにも関わらず乗ることが出来ないという状況が多く、困惑している。

(委員)タクシーだとセダン型は乗り降りが大変なので、ジャパンタクシーのような形の方が良いが、その型が来るとは限らないので、福祉有償運送を利用することが多い。

(会長)なかなか台数がないので難しさがある。それは別の次元で考えてかなければいけない。

(委員)従来のバス・タクシーや交通空白地の輸送の団体もそうだが、運行管理の担い手不足などの問題がある中で、各団体が運営をしていて一番深刻な問題は何か。

(日野市社会福祉協議会)ドライバー不足が一番困っている。社員や常勤職員でドライバーを雇用できない状況があるので、地域の運転ボランティアの協力を得なければ成り立たないところがある。増やしていく努力はしているが、なかなか応じていただける方がいない。

(委員)地域活動支援センターとして、活動に参加している利用者の送迎をしている。障害の種類を問わず利用できるが、運転手の確保にとっても苦労している。ボランティアで運転手を確保することの大変さは並大抵ではないと感じており、前回の議事録で福祉カフェテリアが事業をやめたと知り、非常にショックを受けた。それくらいにこの事業の運営自体が厳しいということで、各団体の料金設定も検討していかざるを得ないと感じた。

	<p>(委員)高幡や新井、程久保、三沢のエリアで高齢者の総合相談窓口をしている。バスや多摩都市モノレール、京王線はあるが、坂が多くて介護度が要支援のまだ元気な方でも外出が難しい。福祉有償運送の数をもっと増やしてもらえると有難い。</p> <p>いくつか質問で、各団体の実績が示されているが、まだ余裕があるか。高齢者の利用が少ない団体もあるが、対象者等に制限を設けているのか。高齢者の中には介護が必要な方もおり、そういう重度になったら利用は難しいと言われたことも有るので、その辺りのことを聞かせてもらいたい。</p> <p>(日野市社会福祉協議会)高齢・障害、様々な方の要望・登録を受けている。福祉有償運送は利用対象者が絞られており、公共交通機関を1人で使うことが困難だと認められる障害のある方や、要介護・要支援の認定を受けている方になる。状況等を伺って訪問をして状況確認をしたうえで、確かに利用が必要だと思われる方を登録している。</p> <p>(自立生活センター日野)自立生活センターと共に重度訪問介護の事業をしているが、そちらに登録されている方がさらに必要になったら福祉有償運送のサービスも使えるという形で提供している。</p> <p>(幹福社会)車の配車の余裕については、まだ 20%程度は余裕がある。重度の方の利用については、過去 20 年弱の中で 1 人、利用のお断りをした方がいた。ご自宅で寝たきりの方でストレッチャーの利用希望があったが、骨密度がかなり低いので抱える時に骨折するから気を付けてほしいということ、関節が外れやすくてスライドボードをスライドする時も股関節等を傷める人がいるので気を付けてほしいとの話だった。ただ、家の間取りやストレッチャーのサイズの問題でストレッチャー自体がご自宅に入らず、ご本人を抱えることも出来ないため、対応が難しいという話をさせていただいた。</p> <p>(事務局)皆様から頂いたご意見は、今後の施策検討の参考にさせていただく。</p> <p>(4)福祉有償運送制度改正について</p> <p>(運輸支局)制度の大幅な改正が予定されていて、まず第 1 弾として、運転者証に関する制度が変わり、従来の規定だと運転者証を車内に掲示する義務があったが、8月1日付けで作成及び掲示の義務がなくなった。この後も、更新登録申請時の書類添付の削減や、対価に関する考え方の改正も予定している。また、ドライバー不足という問題点を解決していこうと動いているところなので、またお示しできる段階になったらお示しする。</p> <p>(5)その他</p> <p>(委員)1点質問だが、この運営協議会で議論された内容は、地域公共交通会議などで情報共有されたり活かされたりしているか。前回の地域公共交通会議の議事録を読むと、町田の登録不要の活動なども今後勉強していくことが書かれていた。今ある日野の社会資源も使っていただきたい。</p> <p>(都市計画課)地域公共交通会議の中でこちらの議論を発表した経緯が今までないが、計画の中にボランティア型交通等についてもあるので、こういったご意見も反映出来るように検討していきたい。</p>
作成者	事務局(福祉政策課)